

# 図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 145



2003.10

- シリーズ“素晴らしい本の世界”
- シリーズ“!” 第13回「ネットで百科」を知っていますか?
- 教官著作寄贈図書一覧
- 研修報告
- 図書館の動き
- 図書館からのお知らせ



## 青春時代の思い出に



宮澤 政文

1. 『馬鹿について』—いきなり馬鹿などという言葉が出てくると怒りだす人もいないかもしれないけれど、鬼面人を驚かすつもりもなく、至極マジメな本の話をしているのである。ドイツの精神医学者ホルスト・ガイヤーの書いたこの啓蒙書（満田・泰井訳・創元社）については以前、北杜夫がある新聞で紹介したことがある。先生の説によれば、馬鹿とは知能の高低の問題ではなく、知能の正常な馬鹿もいれば、知能の高すぎる馬鹿もいるそうである。古来日本では、真面目で勤勉なことが美德として礼賛されてきたが、そしてそれ自体は良いことなのだが、それにしてもバカまじめでユーモアも解さない人が多過ぎるのではないかとガイヤー博士は言っている。「勤勉は馬鹿の埋め合わせにはならない。勤勉な馬鹿ほど、はた迷惑なものはない」また曰く。「馬鹿にはユーモアがない」と。

人はいずれ老いてゆくもので、青春時代もたちまち過ぎ去るものだ。貴重な青春時代を専門の知識を習得することのみに費やすのは如何にも寂しい人生

であろう。人は「本を読むこと」によって、多くの先輩達の思想や経験や創造したものを“追体験”し、また過去の歴史の記憶を呼び起こすことが出来る。学生諸君は、将来心豊かな人生を送るためにも、また“専門バカ”などと言われたいためにも、読書を通して己の感性と個性を伸ばして欲しいものだ。

2. 文学入門 —平安時代のこと、『更級日記』の著者はその少女時代、「物語」をぜひとも読みたいと仏様に祈願し、願いかなって『源氏物語』その他の写本が“をば”からプレゼントされるや、寝る間も惜しんで一心不乱に読み耽ったという。誰でも若いときそのような経験をしてきたに違いない。少年時代、『宝島』『レ・ミゼラブル』『三銃士』『モンテ・クリスト伯』『鉄仮面』などに夢中になった人は多いであろう。

私が高校に入学した頃の日本は戦後復興の途上で、我々は皆貧しく、一般の家庭にはまだテレビというものがなかった。田舎の高校生にとって、本こそは宝物であり、娯楽であり、生きがいであった。休日

には、ミッチェルの『風とともに去りぬ』、ヘッセの『郷愁（ペーテル・カーメンツィント）』を初めとする作品、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』、ロマン・ロランの『ジャン・クリストフ』などをよく読んだ。夏目漱石、島崎藤村、寺田寅彦、中島敦、小林多喜二などの著書を図書室から借り出して読んだのもこの頃のことである。乱読気味であったが、私などはまだ“おくて”の方で、同級生や先輩の中にはニーチェの哲学書や西田幾多郎の『善の研究』を読んでいる者もいた。

私は漱石の主要作品を高校時代に殆ど読んだ。ただ、後年振り返ってみて、どのくらい理解できていたか、となると甚だ心もとない。というのは、年を経て『虞美人草』『草枕』『三四郎』『それから』『門』などを読み返す度に、漱石の世界に新しい発見をするからである。また、私は森鷗外を若いとき読まなかった。古臭いという感じから逃れられなかったからである。40代に入って『舞姫』『雁』『阿部一族』『高瀬舟』などを読んだとき、江戸から明治に至る時代の人間を描いた鷗外の世界に時代や社会体制の違いを越えて共感するところが多いのに我ながら驚いたものだ。これも年の所為であろう。

現代文学について言うなら、私が太宰治に親しむようになったのは、大学を出てすぐ後のことで、かなり遅かった。文学青年であった友人の説によれば、太宰治に本当に引き込まれると熱を出して寝込むのだそうで、後追い自殺をした人もいるそうである。幸い、私は寝込まずに済んだ。私は、一般に多く読まれている晩年の『斜陽』『ヴィヨンの妻』『人間失格』などよりも、精神的に安定していた中期の『津軽』や短編の『富岳百景』『駆込み訴へ』などの方が好きである。

同じ頃読み始めた坂口安吾については、小説よりも『青春論』『日本文化私観』『墮落論』のような評論に独特の迫力と魅力がある。中でも『墮落論』は終戦直後に書かれたもので、当時の若者に強烈なインパクトを与えたという。安吾の評論は文明批評であり日本人論でもあるのだが、その論旨は極めて簡明直截で力強い。今でも、多くの若者の共感を呼ぶであろう。例えば、戦時中に書かれた『青春論』で安吾は、宮本武蔵を剣の達人ということ以外の面で徹底的にこき下ろしている。（どのようにやっつけているかといえば、それは自ら読むのが一番である。）また、『真珠』という短編は1941年12月8日、日本軍

がハワイのパール・ハーバーを奇襲攻撃した日に焦点をあて、世の緊張感を背景にしながら安吾の奔放な私生活ぶりを描いたもので、戦況が悪化したとき発禁処分になったそうである。

3. 日本人って何？ ーいわゆる日本人論にはいくつかのブームがあるのだそうで、ルース・ベネディクトが太平洋戦争中に書いた『菊と刀』は既に古典といってよい。最近では、イザヤ・ベンダサンの『日本人とユダヤ人』（1970年）以来、山本七平は、自身の戦争体験を基にして日本人の考え方・集団行動・組織論など、極めてユニークな日本人論を展開してきた。『私の中の日本軍』『存亡の条件』『空気の研究』等を通して彼の追求し続けたものは、つまるところ『日本人とは何か』という永遠のテーマであった。

私の世代は、直接の戦争体験はないものの、その影響や被害を存分に受けてきた。そのためであろう、私は若いときから明治以降の「日本と戦争」に強い関心を持ち、伝記やノンフィクションを読んできた。その中の白眉は、石光真清の自伝4巻『城下の人』『広野の花』『望郷の歌』『誰のために』であろう。

“国益”のために一生を捧げた（そして裏切られた）一個人を通して描いた日本近現代史であり、近年これ程面白い本はない。

4. 前途有望なる学生のために ー私が若いとき読んだものの中から今の若い人に薦めたい本を幾つかリストアップしておこう。教育委員会では推薦できないものもあるので要注意。

北杜夫『どくとるマンボウ青春記』他、中島敦『李陵』『名人伝』、藤原てい『流れる星は生きている』、ガイ・エンドア（河盛訳）『パリの王様』（『モンテ・クリスト伯』などの傑作を書いたアレクサンドル・デュマの破天荒な生涯）、シラー『群盗』、シュトルム『みずうみ』、マイアーフェルスター『アルト・ハイデルベルク』、モーム『お菓子とビール（Cakes and Ale）』『雨（Rain）』『赤毛（Red）』（原書でStory-tellerの面白さ百倍）、サロイアン『人間喜劇（The Human Comedy）』『僕の名はアラム（My Name is Aram）』（高校1年の英語でユーモアとペーソスの味）、ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』、スタンダー『カストロの尼』、ラディゲ『肉体の悪魔』、カミュ『異邦人』、ロマン・ロラン『ゲーテとベートーベン』、萩原朔太郎・三好達治・中原中也の詩集。最後にわが国古典の代表

として『平家物語』をぜひ原文で。

これから風の冷たい季節になる。学生諸君は朝寝坊しないよう、単位を落とさないよう、遊びすぎないよう、

いよう、しかしまた同時に、ユーモアの精神を忘れず、こたつで本を読み、勉学にも励んで欲しい。健闘を祈る。  
(工学部機械工学科)

【紹介された本】 (静＝静岡本館/浜＝浜松分館) ※開架・閉架両方にある場合は開架のみ表示

- |                                         |                               |                       |                                   |
|-----------------------------------------|-------------------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 『馬鹿について』                                | 静・浜/開[発注中]                    | 『日本人とユダヤ人』            | 静/閉[304/B35] 浜/開[081/N71/18]      |
| 『更級日記』                                  |                               | 『私の中の日本軍』             | 静/閉[390.4/Y31/1-2] 浜/開[302/10/1]  |
| 静/開[B915.36/SU28/1-2] 浜/開[910.8/151/20] |                               | 『存亡の条件』               | 静/開[361.6/Y31/B]                  |
| 『源氏物語』                                  | 静/開[913.36/MU56/1-8]          |                       | 浜/開[発注中]                          |
| 浜/開[913.36/MU56/1-10] (浜は瀬戸内寂聴の翻訳)      |                               | 『空気の研究』               | 静・浜/開[発注中]                        |
| 『宝島』                                    | 静/開[933/ST5/B]                | 『日本人とは何か』             | 静/閉[361.42/Y31/1-2] 浜/開「発注中」      |
| 『レ・ミゼラブル』                               | 静/開[908/SE22/13-15]           | 『城下の人』・『広野の花』・『望郷の歌』・ |                                   |
|                                         | 浜/開[958/H98/2-4]              | 『誰のために』               | 静/閉[915.9/I77] 浜/開[発注中]           |
| 『三銃士』                                   | 静/閉[953/D96/1-2]              | 『どくとるマンボウ青春記』         | 静/閉[910.28/KI61] 浜/開[914.6/90]    |
| 『モンテ・クリスト伯』                             | 静/閉[953/D96/B1-7]             | 『李陵』・『名人伝』            | 静/開[918/N34/1] 浜/開[918.6/G34/63]  |
| 『鉄仮面』                                   |                               | 『流れる星は生きている』          | 静/閉[080/SE227/46] 浜/開[発注中]        |
| 『風とともに去りぬ』                              | 静/開[908/SE22/A1-3]            | 『パリの王様』               | 静/閉[280.8/SE22/1]                 |
|                                         | 浜/開[登録中]                      | 『群盗』                  | 静/閉[908/SE22/18] 浜/開[908.3/40/18] |
| 『郷愁』                                    | 静/開[908/SE22/31] 浜/開[登録中]     | 『みずうみ』                | 静/開[948/ST7/2] 浜/開[発注中]           |
| 『若きウェルテルの悩み』                            | 静/閉[943/G56]                  | 『アルト・ハイデルベルク』         | 静/閉[942/ME95] 浜/開[発注中]            |
|                                         | 浜/開[908.3/40/19]              | 『お菓子とビール』・『雨』・『赤毛』    | 静/閉[908/SE22/60] 浜/開[908.3/40/60] |
| 『ジャン・クリストフ』                             | 静/開[908/SE22/34-36]           | 『人間喜劇』                | 静/閉[908/SA69]                     |
|                                         | 浜/開[908.3/40/47-48]           |                       | 浜/開(原書)[発注中]                      |
| 『善の研究』                                  | 静/開[081/N77/47] [121.6/N81/1] | 『僕の名はアラム』             | 静/閉[938/G34/5]                    |
|                                         | 浜/開[081/12/47]                | 『シラノ・ド・ベルジュラック』       | 静/閉[952/R73] 浜/開[発注中]             |
| 『虞美人草』・『草枕』・『三四郎』・『それから』・『門』            | 静/開[918.6/N58] ※『漱石全集』        | 『カストロの尼』              | 静/閉[908/SE22/21] 浜/開[908.3/40/21] |
|                                         |                               | 『肉体の悪魔』               | 静/開[958/R11] 浜/開[発注中]             |
| 『草枕』・『三四郎』・『それから』                       | 浜/開[910.8/153/3]              | 『異邦人』                 | 静/閉[953/C14] 浜/開[登録中]             |
| 『虞美人草』・『門』                              | 浜/開[登録中]                      | 『ゲートとベートーベン』          | 静/開[958/R64/23] 浜/開[発注中]          |
| 『舞姫』・『雁』・『阿部一族』・『高瀬舟』                   |                               | 『平家物語』                | 静/開[913.45/H51/B1-12]             |
|                                         | 静/開[918.6/MO45] ※『鷗外全集』       |                       | 浜/開[910.8/151/32-33]              |
|                                         | 浜/開[910.8/153/1]              |                       |                                   |
| 『斜陽』・『ヴィヨンの妻』・『人間失格』・『津軽』・              |                               |                       |                                   |
| 『富岳百景』・『駆け込み訴へ』                         | 静/開[918.6/D49] ※『太宰治全集』       |                       |                                   |
|                                         | 浜/開[910.8/153/35]             |                       |                                   |
| 『青春論』・『日本文化私観』・『墮落論』・『真珠』               |                               |                       |                                   |
|                                         | 静/閉[918.6/SA28] ※『定本坂口安吾全集』   |                       |                                   |
| 『日本文化私観』・『墮落論』                          | 浜/開[918.6/G35/77]             |                       |                                   |
| 『青春論』・『真珠』                              | 浜/開[発注中]                      |                       |                                   |
| 『菊と刀』                                   | 静/閉[389.1/B35/B]              |                       |                                   |
|                                         | 浜/開[081/N71/18]               |                       |                                   |



## 本の読み方いろいろ



小和田 哲男

私の場合、読む本は、強いて分類すればつぎの三類型になる。一つは、自分の研究に即した専門書。二つは、専門書というほどではないが、何らかの形で研究に使えることが期待される本で、仮に、準専門書としておこう。そして、三つは、全く専門外のその他の本である。

この「すばらしい本の世界」は、専門書を除くとしてあるので、二つ目と三つ目を取り上げることになるが、準専門書といっても幅が広く、ここでは、二、三の例を掲げることでお許しいただきたい。

私の趣味は旅である。しかし、その旅も、城や古戦場、古道、寺社などを巡ることが多いので、半分、あるいはそれ以上、研究と重なっているわけで、純然たる趣味ということにはならないかもしれない。それはさておき、旅に出る前の読書は、私にとっての至福の時間なのである。

旅行案内書などを読んで行程の計画をたてたりするが、それは読書には入らない。むしろ、その行程にかかわる関連書を読むことが旅への夢をさらにかきたてる。

一例として、熊野古道歩きに挑戦したときの本を掲げておこう。基本文献として戸田芳実著『歴史と古道一步いて学ぶ中世史一』と宮家準著『熊野修験』に一通り目を通し、あと、小山靖憲著『熊野古道』を鞆に入れて出発した。

なお、古道でも、実際に自分では歩けそうもない場所は、他の人の撮った写真や文章でその場の雰囲気味わうしかない。塩の道は、静岡県側は、静岡新聞社編『塩の道ウォーキング』を使って実際に追

体験をすることができるが、長野県側はそうもいかず、もっぱら有賀競文、野中賢三写真およびイラストの『秘境はるか塩の道秋葉街道』で満足するしかないのが実情である。しかし、それも楽しい。

また、すでに何度も訪れているところでも、一冊の本を読んで出かけたことで、今まで気がつかなかった「歴史の発見」をすることもある。高藤晴俊著『日光東照宮の謎』がその例である。

日光東照宮は、それこそ小学生のころから何回も訪ねており、神廐のところにある三猿、すなわち、見ざる、言わざる、聞かざるの彫刻や、左甚五郎作と伝えられる「眠り猫」など、案内の人から同じ説明を受け、全部知っているつもりになっていた。

ところが、一人の見学者としてでなく、何人かを引きつれて、私がその案内をする必要にせまられることになり、もう少し勉強しておこうと思って手にしたのがこの本であった。そこには、例の「魔除の逆柱」といわれている柱の本当の意味や、唐門正面の「舜帝朝見」の彫刻に隠された含意などが盛りこまれており、よく、「目から鱗が落ちる」というが、私にとってまさにそうだった。

以上が、私の分類でいう二つ目の準専門書から印象に残ったものをピックアップしたものである。そこで次に三つ目のその他の本を取り上げる。

大学に入学したばかりの頃、国文学の授業で、先生から、「文章がうまくなりたいと思ったら、作家の書いたものをたくさん読みなさい」といわれた。作家の書いたものといっても、ジャンルはいろいろあるわけであるが、私は、もっぱら歴史小説、しか

も戦国時代を扱った作品を読みあさった。

ちょうど、司馬遼太郎が、斎藤道三と織田信長を扱った『国盗り物語』、雑賀孫市を扱った『尻啖え孫市』、山内一豊とその妻を扱った『功名が辻』などを次つぎと発表していたときで、その頃の司馬作品、特に戦国時代ものはすべて読んだと記憶している。

その他の作家としては、海音寺潮五郎の『天と地と』、吉川英治の『新書太閤記』、山岡荘八の『徳川家康』などは、それこそ、夜がふけるのも忘れるくらい読みふけたものである。文章がうまくなったかどうかはわからないが、少なくとも、文章を書くことが苦にならないと思うようになったのは、そのころの“乱読”の成果といってよいかもしれない。

研究者となつてからは、別の形で作家の方々と関係が生まれるようになった。作家が小説を書くにあたっての情報提供、史料提供、あるいは質問に対して答えるという形でのつながりである。隆慶一郎の『影武者徳川家康』に私の論文が一部分引用されているのをご存じだろうか。小説に私の論文が引用さ

れたのは初めての経験である。

永井路子さんが、今川氏親夫人寿桂尼を主人公とした『姫の戦国』を書いたときは、寿桂尼ゆかりの寺などを私も一緒に調査してまわっており、そうしてできあがった作品を贈呈されることも少なくない。歴史家の目とはちがう作家の目で人物が描かれており、小説は、人間を知る、あるいは人間通になる上で欠かせない本といえるように思う。

最後に、そうして贈呈された本の中から、特に三冊を選んで紹介しておきたい。一冊目は、安部龍太郎『信長燃ゆ』で、これは、本能寺の変を、最近、学界でも注目するようになってきた朝廷黒幕説の立場に立って書かれたものである。

二冊目は、鈴木由紀子『花に背いて』である。これは、越後上杉謙信の執政といわれた直江兼続とその妻のことを描いた作品で、常に男の陰にあって表に出てこない女性のことがうまく描かれている。そして三冊目は、典厩五郎『家康、封印された過去』である。謎ときの楽しみもある本なのでお勧めしたい。

(教育学部社会科)

#### 【紹介された本】 (静=静岡本館/浜=浜松分館)

『歴史と古道一步いて学ぶ中世史一』人文書院  
静/開[210.4/TO17]  
『熊野修験』吉川弘文館 静/開[発注中]  
『熊野古道』岩波新書  
静/開・新書[081/I95SD/S665]  
浜/開・文庫新書[081/I95/665]  
『塩の道ウォーキング』静岡新聞社  
静/開[291.54/SH94]  
『秘境はるか塩の道秋葉街道』(私家版)  
静/開[発注中]  
『日光東照宮の謎』講談社現代新書  
静/開[発注中]  
『国盗り物語』新潮社  
静/開[918.6/SH15/10-11] 浜/開[913.6/31/1-2]  
『尻啖え孫市』講談社 静/開[918.6/SH15/8]  
『功名が辻』文芸春秋社 静/開[918.6/SH15/9]  
『天と地と』講談社  
浜/開[913.6/26/1-3][918.6/2/15]

『新書太閤記』講談社  
静/開[918.6/Y89/1-4] 浜/開[登録中]  
『徳川家康』講談社 浜/開[913.6/541/1-13]  
『影武者徳川家康』静岡新聞社 静/開[発注中]  
『姫の戦国』文芸春秋社 静/開[発注中]  
『信長燃ゆ』日本経済新聞社 静/開[発注中]  
『花に背いて』幻冬舎 静/開[発注中]  
『家康、封印された過去』PHP研究所  
静/開[発注中]



## シリーズ“!” 第13回

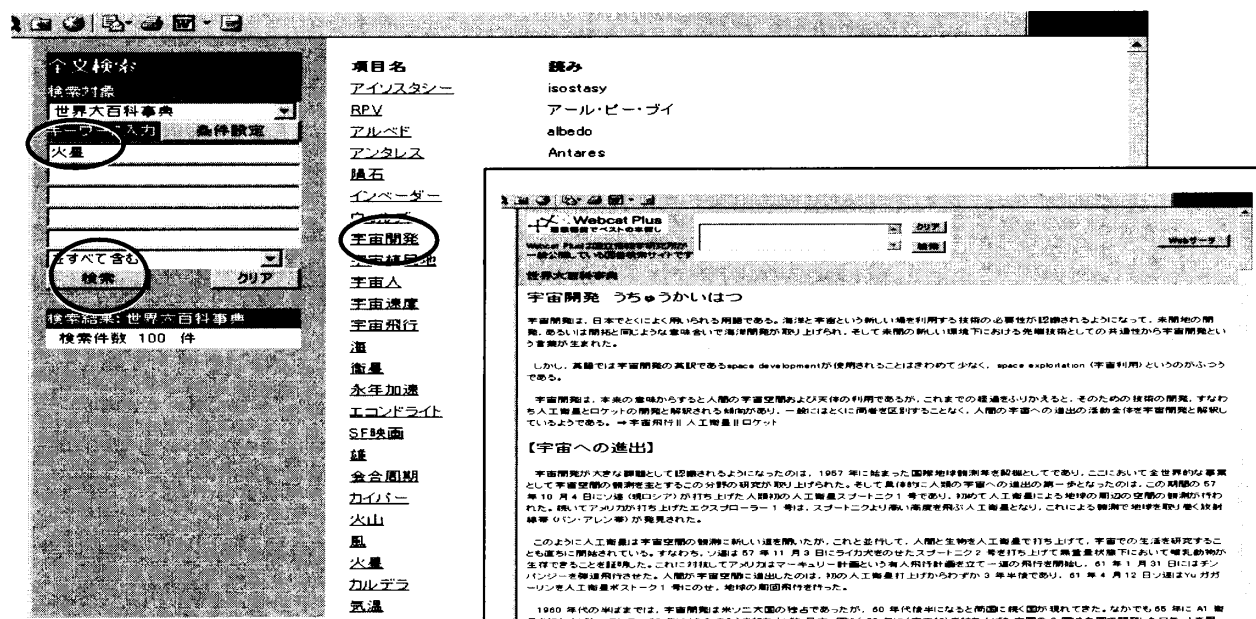
## 「ネットで百科」を知っていますか?

「ネットで百科」は「百科事典」をインターネットで自在に検索して読むことができるデータベースのことです。学内より利用が可能です。

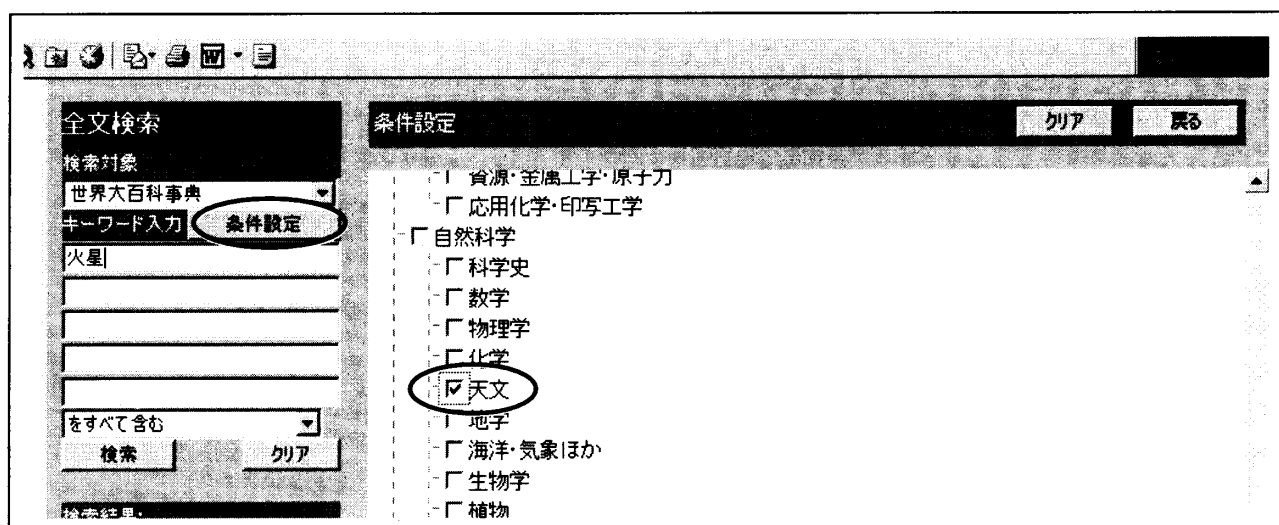
図書館HP左側、電子ジャーナル・データベース関連のデータベース[学内利用のみ]の下にあるネットで百科をクリック

## 全文検索

- ①キーワードを入力（5つまで入力可能）し、検索ボタンをクリックします。
- ②入力されたキーワードを本文中に含む項目がリストアップされます。
- ③項目名をクリックするとその本文が表示されます。



- ◎条件設定ボタンをクリックすると条件設定画面が表示され、チェックをすることで検索結果のジャンルを設定することができます。





## 教官著作寄贈図書一覧

このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたものです。

なお、所属は受け入れ当時の所属を示します。

(各館50音順)

### ●本館受入

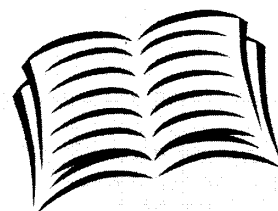
- ◇石井正春 (教育学部)
  - ・発達障害児のアセスメントと治療教育：自閉性障害・知的障害・未発達(重度)・重複障害児への発達神経心理学的照射 日本図書センター  
開架[378/I75] <著>
- ◇沼尻晃伸 (教育学部)
  - ・工場立地と都市計画：日本都市形成の特質 1905-1954 東京大学出版会  
閉架[518.83/N99] <著>
- ◇岡本光司 (元教育学部)
  - ・算数・数学教育研究と私：静岡大学教育学部退官にあたって  
開架, 閉架[375.41/O42] <著>
- ◇桐谷仁 (人文学部)
  - ・国家・コーポラティズム・社会運動：制度と集合行動の比較政治学 東信堂  
開架[311.13/KI54] <著>
- ◇久保英雄 (人文学部)
  - ・知られざるスターリン 現代思潮新社  
閉架[289.3/ST1M] <訳>
- ◇郷式徹 (教育学部)
  - ・乳幼児心理学 北大路書房  
閉架[376.11/MU93] <執筆>
- ◇佐藤信一 (人文学部)
  - ・世紀転換期の国際政治史 ミネルヴァ書房  
開架, 閉架[319/F74] <編著>
- ◇佐藤誠二 (人文学部)
  - ・大学評価とアカウンタビリティ：国立大学の法人化と新会計システムの将来像 森山書店  
閉架[377.1/SA85] <著>
- ◇佐藤博明 (名誉教授)
  - ・ドイツ連結会計論 森山書店  
開架, 閉架[336.92/B14] <監訳>
  - ・ヤーマスの目：静岡大学・知の標とともに 静岡新聞社  
開架[377.1/SA85] <著>
- ◇白井嘉尚 (教育学部)
  - ・A-Value展記録集1-8 A-Value展実行委員会  
閉架[708.7/A96/1-8] <編>
- ◇田島慶吾 (人文学部)
  - ・アダム・スミスの制度主義経済学 ミネルヴァ書房  
閉架[331.42/SM5T] <著>
- ◇田中克志 (人文学部)
  - ・抵当権効力論 信山社  
閉架[324.34/TA84] <著>
- ◇遠山弘徳 (人文学部)
  - ・平等主義の政治経済学：市場・国家・コミュニティのための新たなルール 大村書店  
閉架[333.04/B68] <訳>
- ◇南富嶺 (人文学部)
  - ・近代日本と朝鮮人像の形成 勉誠出版  
開架, 閉架[361.42/N48] <著>
  - ・近代文学の「朝鮮」体験 勉誠出版  
開架, 閉架[910.26/N48] <編>
- ◇林弘文 (名誉教授)
  - ・JCOの臨界事故と静岡大学の36年  
閉架[377.28/H48] <著>
  - ・今井功流体力学講義ノート  
閉架[423.8/H48] <編>
- ◇布川日佐史 (人文学部)
  - ・雇用政策と公的扶助の交錯：日独比較:公的扶助における稼働能力の活用を中心に 御茶の水書房  
閉架[366.234/F72] <編著>
- ◇村越真 (教育学部)
  - ・子どもたちには危険がいっぱい：自然体験活動から「危険を見ぬく力」を学ぶ 山と溪谷社  
閉架[374.92/MU46] <著>
- ◇日野資純 (名誉教授)
  - ・日本語のキーワード：現代語・古典語 東苑社  
閉架[814/H61] <著>
  - ・分類神奈川県方言辞典. 1 神奈川県立歴史博物館  
閉架[818.37/KA43/1] <監修>
- ◇本多隆成 (人文学部)
  - ・焼津市史. 資料編2 焼津市  
閉架[215.4/Y16/1(2)] <編さん委員>
  - ・焼津市史. 資料編4 焼津市  
閉架[215.4/Y16/1(4)] <編さん委員>

●分館受入

- ◇松岡智之（教育学部）  
・歴史との往還 新典社  
開架[913.36/O15] <執筆>
- ◇松木栄三（人文学部）  
・ロシア中世都市の政治世界：都市国家ノヴゴロドの群像 彩流社  
閉架[238.2/MA79] <著>  
・ピョートル前夜のロシア：亡命ロシア外交官コトシーヒンの手記 彩流社  
開架[238.05/KO94M] <訳>
- ◇両角達男（教育学部）  
・図形・空間のカリキュラム改革. 改稿版 東洋館出版社  
開架, 閉架[375.41/O17] <執筆>  
・「心がひらく」授業の創造と展開：青島小学校の実践と学びの陶冶 [藤枝市立青島小学校]  
開架, 閉架[375/F56] <共著>  
・数学学習における内省的な記述の効果に関する実証的研究  
開架, 閉架[375.41/SU23] <共著>
- ◇山口幸洋（元人文学部）  
・地域語研究論集：山田達也先生喜寿記念論文集 港の人  
閉架[818.04/Y19] <執筆>
- ◇山本義彦（人文学部）  
・近代日本資本主義史研究：歴史から現代へ ミネルヴァ書房  
開架, 閉架[332.107/Y31] <著>  
・清沢冽評論集 岩波書店  
閉架[080/I95BB/B178(2)] <編>
- ◇楊海英（人文学部）  
・Manuscripts from private collections in Ordus, Mongolia: the Ganjurjab collection 2  
International Society for the Study of the Culture and Economy of the Ordos Mongols  
閉架[022.22/MA48/2] <編>  
・Janggiy-a Qutughtu: a mongolian missionary for Chinese national identification  
International Society for the Study of the Culture and Economy of the Ordos Mongols  
閉架[182.227/Y72] <著>

- ◇浅間正通（情報学部）  
・情報社会のネオスタンダード：多文化共生社会のコミュニケーション 創友社  
開架[361.45/A86] <編著>
- ◇佐藤博明（名誉教授）  
・ヤーマスの目：静岡大学・知の標とともに 静岡新聞社  
開架[377.1/SA85] <著>
- ◇西岡雅夫（客員教授）  
・機械技術者のための実用カム機構学 日刊工業新聞社  
開架[531.67/N86] <著>
- ◇許山秀樹（情報学部）  
・これが漢語だ：王希傑言語文化随筆集 白帝社  
開架[820/O11] <訳>
- ◇福家俊郎（工学部）  
・半導体工学 オーム社  
開架[549.8/I43] <共著>
- ◇松田禎二（名誉教授）  
・古典ギリシアの人間観 行路社  
開架[131/MA74] <著>
- ◇村越真（教育学部）  
・子どもたちには危険がいっぱい：自然体験活動から「危険を見ぬく力」を学ぶ 山と溪谷社  
開架[374.92/MU46] <執筆>
- ◇山本義彦（人文学部）  
・近代日本資本主義史研究：歴史から現代へ ミネルヴァ書房  
開架[332.107/Y31] <著>  
・清沢冽評論集 岩波書店  
開架[304/KI91] <編>

図書館では学内出版物および学内関係者が執筆した図書資料を収集しています。  
出版されましたらぜひ、図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

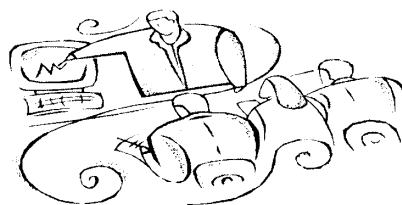


## 研修報告

### 📖 目録システム講習会（図書コース）

平成15年6月25日～27日の3日間、国立情報学研究所（NII）開催の目録システム講習会（図書コース）に参加してきました。この講習会の目的は大学図書館などが参加して構築している総合目録データベースの内容を理解して、入力基準を習得することにあります。「総合目録データベース」とは普段図書館を利用している上では、直接耳にしない言葉かもしれませんが、全国の大学図書館の蔵書を検索する Webcat や WebcatPlus、他大学の論文や図書を取り寄せる際の ILL システムのほか情報検索サービスに広く利用されている目録データベースです。

静岡大学附属図書館もこの総合目録データベースに参加しているので、Webcat の検索結果で静岡大学の所蔵を確認することや、他大学に ILL の申し込みが出来るようになっていきます。学内の OPAC のデータも原則として総合目録データベースのデータを利用して提供しています。そしてこのデータベースに静岡大学の情報を登録するのが、私のいる図書情報係の主な仕事の一つになってい



ます。

講習は第1日目が概論と検索実習、第2, 3日目が登録実習と補講という内容で行われました。登録実習では実際の図書に記載された情報からシステムに入力する作業を行いました。国立情報学研究所では年数回このような講習会を実施しているため、淡々とスケジュールどおり行われたという印象がありました。普段の作業で疑問に思っていることを質問する機会がほとんどなかったことは少し残念でしたが、これまで曖昧なまま入力していた事柄の意味が確認できたことも多く、有益な3日間となりました。

私はこれまで、他大学で図書館のカウンター業務やシステム管理に携わってきましたが、目録を担当するのは今回が初めてとなります。とくに外国語の図書を扱うときはまだまだ戸惑うこともありますが、講習会で習得した知識をふまえて、より信頼性の高い情報を提供できるよう努めていきたいと思います。

（情報管理課・図書情報係 杉山智章）

### 📖 図書館等職員著作権実務講習会

平成15年8月6日～8日の3日間、平成15年度図書館等職員著作権実務講習会に参加してきました。

著作権は近年話題になる知的財産権の一つで、著作物を作った時点で自動的に発生する権利です。著作権は著作権法や国際条約などによって保護されますが、ある一定の場合には、著作権法において定められている「権利制限規定」により、作者の了承を得ずに著作物を使用することもできます。その一つが、著作権法第31条による「図書館等における複製」です。この規定があるため、一定の条件下（調査研究のため、一部分、一人1部）

において、図書館での複製が可能になるのです。

この講習会では、他にも ILL に関連する公衆送信権の話や、図書館と出版界で話題に上っている公貸権の話など、時事的な問題についても聞くことができました。また、質疑応答の時間には他組織が著作権と関連してどんな問題を抱えているかなども知ることができました。

科学技術が進歩し、また著作物に関するいろいろなサービスや試みが生まれるにつれて、著作権法も変化・進化します。著作権の問題はいつになってもリアルタイムな話題なのだと思います。

（情報サービス課・分館サービス係 尾藤泰代）

## 大学図書館職員長期研修参加記

7月に3週間という長期にわたる研修に行ってきた。40歳前後の中堅職員40名が朝から晩まで顔つき合わせての講義と図書館や博物館などの見学会に討論。情報技術の進歩と図書館という最近定番のテーマに加えて今年は、参加主体が独立法人化目前の国立大学図書館職員ということもあり、法人化後の図書館のあり方というのも話題になった。もちろん国立から独立法人になったからといって図書館の基本路線が変わるわけではないのだが、少なくとも図書館経営は変わらざるを得ないだろうし、私学図書館からの参加者の経験などを聞くことができたのは大きな収穫だった。

研修そのものの成果も大事だが、全国の同世代

の大学図書館職員とのつながりが今後図書館で働く上で大きな力となることと思う。この研修の間に、医学情報サービス研究大会京都大会にも参加した。こちらは、私的な大会で、金曜の夜東京を出て日曜の深夜に戻るという強行日程だったが、去年静岡大会の運営に加わった縁から参加したものである。大学医学部や看護学校の図書館員、病院図書室や薬品会社の資料室で働く職員など医学情報の媒介をする側だけでなく、教官や看護学生など受け取る側、データベース等を提供する企業なども参加するという事で、長期研修とは違った意味での連携の場となった。

(情報管理課・情報システム係 小濱 進)

## 図書館の動き

### ◆第50回国立大学図書館協議会総会

<平成15年6月25日(水)～26日(木)>

於：大宮ソニックシティ>

図書館長、事務部長、情報管理課長が出席。

今回は「第50回記念総会」であり、通常の総会日程に加えて記念式典、記念講演会等の特別プログラムを組み込んで行われた。

一日目は、記念式典が行われた後、委員会等報告及び協議、また文部科学省学術基盤整備室長から所管事項が説明された。引き続き「大学図書館の新たな展開」をテーマに研究集会と記念講演が行われた。

二日目は、分科会が行われ、活発な議論が展開された。総まとめの全体会議では、事務局から提案された新しい会則案が大筋了承され、本協議会は平成16年度から「国立大学図書館協会」に移行することが決定され、新協会発足に向けた各種準備を進めていくことになった。

### ◆平成15年度第1回附属図書館利用学生モニター会議

<本館：平成15年7月24日(木)>

学生モニター9名と図書館職員8名が出席。

情報サービス課長から前年度の図書館活動の報告と本年度から行われている一般市民への貸出サービスの開始について、11月に行われる全国図書館大会への参加の報告等があった。続いて、電子ジャーナルや全館禁煙の実施等、図書館のサービス・施設について意見交換が行われた。

<分館：平成15年7月17日(木)>

学生モニター6名と図書館職員5名が出席。

情報サービス課長から前年度の図書館活動の報告と本年度から行われている一般市民への貸出サービスの開始について、平日の開館時間延長の開始等について報告があった。続いて、学生の図書館の利用方法、図書館施設等について意見交換が行われた。

### ◆平成15年度静岡県大学図書館協議会総会

<平成15年7月29日(火)>

於：東海大学清水校舎(海洋学部)>

図書館長、事務部長、情報サービス課長、図書館専門員が出席。

19館から27名が参加した総会では、平成15年度事業計画及び予算案などが協議され、事業計画としては、実務研修会を昨年度に引き続いて実施することや、11月に静岡で開催される全国図書館大会の第2分科会(大学・短大・高専図書館)に全面的に協力していくことなどが承認された。

協議に引き続き、大学の設置形態が異なる図書館ごとに、それぞれの図書館活動や協議会活動などについての報告があり、加盟館相互の連携を深めていく上で有意義な情報交換がなされた。その後、東海大学海洋研究所地震予知研究センター長尾年恭教授による、「東海地方の下で何が起きているか?—地震予知研究の最前線と地震防災対策の盲点」と題した大変素晴らしい講演が行われた。

## <<浜松分館>>よりお知らせ 文献検索ガイダンスの実施について

浜松分館 2 階視聴覚室 (SCSルーム) において、平成15年10月1日(水)～10月31日(金)の間、主に学部4年生および大学院生を対象とした文献検索ガイダンスを実施します。内容は文献DB (JDream, NACSIS-IR, MAGAZINE-Plus, SciFinder) の検索方法や電子ジャーナルの見方や文献入手法などについての説明で、各コマ、時間は約90分、定員は10名程度です。「文献検索ガイダンス申込書」に記入のうえ、浜松分館まで提出してください。申込書はカウンターにあります。

### 開館カレンダー (静岡・浜松共通)

| 2003年10月 |    |    |    |    |    |   |
|----------|----|----|----|----|----|---|
| 日        | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土 |
|          |    |    | 1  | 2  | 3  |   |
|          | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |   |
|          |    | 14 | 15 | 16 | 17 |   |
|          | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |   |
|          | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |   |

| 11月 |    |    |    |    |    |   |
|-----|----|----|----|----|----|---|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土 |
|     |    |    |    |    |    |   |
|     |    | 4  | 5  | 6  | 7  |   |
|     | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |   |
|     | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |   |
|     |    | 25 | 26 | 27 | 28 |   |

| 12月 |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|     | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |    |
|     | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |    |
|     | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |    |
|     | 22 |    | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28  | 29 | 30 | 31 |    |    |    |

| 2004年1月 |    |    |    |    |    |    |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| 日       | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|         |    |    |    | 1  | 2  | 3  |
| 4       | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |    |
|         |    | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18      | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |    |
|         | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |

| 2月 |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|---|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土 |
|    | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |   |
|    | 9  | 10 |    | 12 | 13 |   |
|    | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |   |
|    | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |   |

| 3月 |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |    |
|    | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |    |
|    | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 |    |    |    |

※ 3/20～3/31は蔵書点検のため休館いたします。

□ 開館 平日 9:00～22:00

■ 開館 平日 9:00～17:00 冬季休業期間中

■ 開館 土・日・祝祭日 9:00～19:00

□ 休館 年末年始、入試など

※ 開館日・開館時間に変更されることがあります。臨時に休館する場合は別途お知らせします。

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第145号

(平成15年10月1日発行)

発行所 静岡大学附属図書館 〒422-8529 静岡市大谷836 Tel.054-238-4477 Fax.054-238-5408

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/home.html>

(再生紙使用)